

三女子大学(津田塾大学、東京女子大学、日本女子大学)連携相互評価結果の公表について

東京を代表するこの三つの女子大学は、それぞれ長い固有の歴史と伝統をもった大学ですが、長きにわたって懇談の機会をもち、互いの情報を交換しながら切磋琢磨してまいりました。その懇談会での話題がきっかけで、今回、自校の自己点検・評価を他の二つの大学から評価してもらうということが実現できましたことは、三校の歴史においても画期的なことではないかと思えます。18歳人口が減少し、大学が全入時代になった今、教育の中身、すなわち教育の質の保証が問われています。そのため、大学は常に自己点検と評価をして、その成果を外部から評価してもらうことが義務づけられています。各大学は7年に一度そういう機会があるのですが、その他にも外部評価を受けることが期待されています。今回、伝統ある3つの女子大学がそれぞれに評価しあったことは、その先鞭をつけることになったのではないかと思えます。

今回テーマになったFD(Faculty Development)は、いずれの大学でも教育の質保証をすすめる上で大切な活動であるとして大学設置基準で義務づけられています。わが日本女子大学においても、FD委員会を中心に熱心に取り組んでおりますが、その現状を外の眼からも見て頂き、その指摘については改善をするよう努力しなければなりません。また、他校の良い事例を学び、わが校でも実践してきたいと思えます。今回の相互評価は初めての試みとしてなされたものですが、評価委員のご指摘にもあるようにさらに良いものに発展させられるよう話し合いを続けていきたいと思っております。今後の活動にご期待頂きたいと存じます。

日本女子大学

学長 蟻 川 芳 子